

# 定期市にスタンプラリーを導入、活性化を図る

**20年来、伸展がなかった月に一度の「北一みのり市」をテコ入れ。会員の意識を変え、一丸となって取り組んだ**

**大型店の進出に押され  
会員店舗が年々減少**

東武東上線東武練馬駅から徒歩30秒の旧川越街道沿いには、約1kmにわたる3つの商店街が隣接している。その一番東側の北町一丁目に、北一商店街は所在する。中山道の脇街道である川越街道は、かつて江戸城から川越城を結ぶ道として整備され、北町は練馬区唯一の宿場町「下練馬宿」として栄えた歴史を持つ。町内には弁天宮や馬頭観音像、大山大道標などの史跡・旧跡も点在している。

北一商店街は、昭和23年に北一商工会として40会員でスタート。昭和49年には130会員まで拡大、法人化して北一商店街振興組合となった。当時は

大変な賑わいで、町外からも多くの買い物客が訪れていた。ところが、近隣への大型スーパーやショッピングモールの進出、地域住民の高齢化などに伴って客足は年々遠のき、現在の会員数は70店舗にまで減少。特に物販店の減少率が高く、以前は130店舗のうちほぼすべてが物販店だったが、今では40店ほどになった。

**物販店の減少に伴い  
北一みのり市も形骸化**

会員数の減少は、商店街発足当初から長年にわたって続いている月に一度の定期市「北一みのり市」の形骸化にもつながっていた。毎月第1土曜日に

各店が商品の特売や割引などのサービスを行うもので、昔はほとんどの会員が参加していたが、物販店以外の業種が増えた分、どうしても参加率は低くなってしまっているのである。このような状態が続けば、店主の高齢化が進んだ5年後、10年後には取り返しのつかないことになる可能性は大きい。

危機感を募らせた理事長は平成23年、森田幸政氏を事業部長に抜擢し、北一みのり市の活性化と新たな施策の実現を託した。早速、森田氏を中心に理事会で何度も話し合いが持たれたが、なかなか実行に移せるような事業案は思い付かなかった。ならば専門家の手を借りようと、平成25〜26年にわたって商店街パワーアップ作戦を活用。中小企業診断士を交えての勉強会が年に5〜6回開かれた。

**全会員にアンケートを実施  
商店街への要望等を調査**

専門家からは、まちゼミや100円



北一商店街の入口

商店街、朝昼夜市など事例を踏まえたさまざまな提案がなされた。しかし、森田氏が求めていたのは、瞬間的な集客力が高い単発のイベントではなく、その後も来訪者に商店街を回遊してもらうため、各店舗の売り上げにつながる企画だった。そのためには自分自身も含め、会員の意識を変えることが大事だと思ふようになった。

業種の垣根を越えて、物販業以外の店舗にも仲間意識を持つてもらえるよ



付近に残る史跡 北町観音堂

### スタンプラリーを訪問者データにも活用

うな、全員が参加できる企画を実現したい。それには、まず会員一人ひとりをよく知らなければならぬ。そこで専門家のアドバイスを受け、平成26年8月に全会員にアンケートを実施。北一みのり市への参加状況や意識、商店街に対する要望などを調査した。理事たちが一軒ずつ回って用紙を手渡し、後日に再び訪れて回収。口頭でもヒアリングをしながら、70店舗すべての回答を得ることができた。

アンケートの結果をもとに、北一みのり市に新たに導入したのがスタンプラリーだ。

### 3商店街協同事業を予定

第2回以降は、商店街に掲げられる「北一みのり市」と書かれた横断幕やフラッグ、ポップやチラシに新たに「川越街道 下練馬宿」というロゴも加え、宿場町をより強くアピールしていくようにした。また、せつかくの良い機会なので商店街への来訪者のデータも取ろうと、スタンプシートに性別・年齢・住所を記入する欄も盛り込み、集計結果を全会員に配った。店名を明示した訪問者数ランキングなども出ており、これを見ることでさらに仲間意識を高めてもらえればという森田氏の狙いだった。

回を重ねるごとに来訪者が増加していることが数字として表れ、スタンプラリーがすっかり定着しつつあること

第1回は平成26年11月29日〜12月14日、歳末大売り出し時に開催された。期間中、会員の店舗に来店するとスタンプが1個押され、2個たると福引きが1回できるというシステムだ。商店街のマップと特売参加店の写真も印刷したシート2000枚を各店舗に配付。福引所で回収されたシートは、第1回が約400枚、お中元時の平成27年6月27日〜7月18日の第2回が約500枚、平成27年11月28日〜12月26日の第3回が約700枚に上った。



みのり市が恒例イベント

を役員たちも実感している。今後も歳末とお中元の年に2回、福引大売出しと北一みのり市を併催していく考えだ。さらに新たな動きとして、隣のきたまち商店街振興組合、ニュー北町商店街振興組合と連携。宿場町・旧跡をテーマにした3商店街共同事業が、平成29年度からスタートする予定だ。



### 理事長 島野善一



「商店街パワーアップ作戦」によって、みのり市は着実に息を吹き返しつつあると思います。スタンプラリーに関し、専門家にデータ分析等をお手伝いいただいたことによって、より科学的に商店街の活性化活動に取り組むことができるようになってきていると感じています。今後も地域発展のため、努力を続けていこうと思っております。

- 商店街名 ..... 北一商店街振興組合
- 会員数 ..... 約 70
- 連絡先 ..... 島野理事長 大黒屋
- 電話 ..... 03-3932-0735
- URL ..... <http://kitaichi-nerima.com/>
- 活用施策 ..... 商店街パワーアップ作戦